

氏名 大山 麻美
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博 甲第 6969 号
学位授与の日付 2024 年 3 月 25 日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻
(学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 A nationwide birth cohort in Japan showed increased risk of early childhood hospitalisation in infants born small for gestational age (Small for gestational age 児は乳幼児期の入院リスクが高い: 21 世紀出生児縦断調査より)

論文審査委員 教授 神田秀幸 教授 増山 寿 准教授 高尾総司

学位論文内容の要旨

【目的】正期産と早産における small for gestational age (SGA) と乳幼児期の入院リスクの関連性を明らかにするために本研究を行った。【方法】厚生労働省による大規模出生児コホート調査である「21 世紀出生児縦断調査」の 2010 年出生児の情報を解析した。生後 6 か月の調査に返答があった 38554 例を対象とし、生後 6~18 か月 (乳児期)、6~66 か月 (乳幼児期) の医療機関への入院の有無と SGA の関連性を調査した。入院理由として肺炎/気管支炎、気管支喘息、腸炎の有無についても調査した。児と母に関連した交絡因子で調整し、ロジスティック回帰分析を行い、appropriate for gestational age 児を reference としてオッズ比 (OR) と 95%信頼区間 (95%CI) を推定した。【結果】正期産 SGA 児は乳児期 (OR 1.26, 95%CI 1.11-1.43)、乳幼児期 (OR 1.19, 95%CI 1.05-1.34) とともに入院リスクが高かった。早産 SGA 児では乳幼児期のみ入院リスクが高かった (OR 1.47, 95%CI 1.05-2.06)。疾患毎では正期産 SGA 児の乳幼児期の肺炎/気管支炎で入院リスク上昇を認めた (OR 1.20, 95%CI 1.01-1.43)。【結論】正期産児、早産児ともに、SGA は乳幼児期の入院リスクの上昇と関連していた。

論文審査結果の要旨

本研究は、厚生労働省による大規模出生児コホート調査を用いて、small for gestational age (SGA) と入院リスクの関連を、分析疫学的に検討したものである。

結果は、正期産、早産ともに、SGA児は乳幼児期の入院リスクの上昇と関連していた。

審査員から、乳児期と幼児期の区別した場合の結果の影響、SGAへ母体の要因、自身の研究の意義などについての質問がなされた。回答として、層別分析としてあり得るが乳幼児期を通じた影響は小児科臨床として重要であること、SGAへの母体の要因は先行研究に準じたが10年前との比較も目的にあり変更せず対応したこと、10年前の調査と比較して腸炎の入院リスクが減った要因としてロタウイルスワクチンの定期接種が考えられその効果を示唆したと思われる本研究は意義が大きいことなどが回答された。わが国のSGAと入院リスクとの関連について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。発表は的確で、周辺知識の学習も十分に認められた。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。